

プロワークース2前部には前面を開放したオーガケース4を設ける。減速ケース1よりプロワークース2中心前後方向にプロワー軸5を設け、そのプロワー軸5にはプロワークース2内に投雪羽根6を固設すると共に、先端部はオーガケース4左右側板に軸架横設したオーガ軸7をその中央部で減速駆動するオーガウォームケース8に軸架される。オーガ軸7には搔き込みオーガ9を固着する。

原動機3下部に取り付けた車軸支持板10に車軸11を軸架し、両軸端に車輪12を固着する。又、車軸11中央には走行ウォームケース13を設け、その走行ウォームケース13の入力軸14と上記減速ケース1下部の走行駆動軸15とを自在継手16を介して連結する。

上記オーガケース4の後方下部より原動機3後方に至るまでの橇17を、前端部を中心にして回動自在に設け、橇17上面中間部にスプリング支18を回動自在に設ける。そのスプリング支18は車軸支持板10に設けたスプリング受19に貫装

し、スプリング支18にはスプリング支18とスプリング受19とを離す方向に付勢する橈スプリング20を設け、スプリング受19より上部位置に、橈17が走行車輪12下端部の下方近傍より下方への回動を規制するストッパー21を設ける。

プロワーケース2側部より後方へ斜め上向きに操作取手22を設け、その操作取手22中間部に回動自在な走行レバー23を設け、その走行レバー23の中間部と上記橈17後部とをロット24で連結する。尚、25はプロワーケース2と連通し、上部に回転自在な投雪シュート26を設けた案内筒である。

以上の通り構成するので、原動機3を駆動して各部を回転させ、走行レバー23を操作して走行車輪12を突出させると、機体は前進し、オガケース4前面の雪をオガ9により搔き込み、中央に寄せてプロワーケース2内に送り込む、プロワーケース2内に送り込まれた雪は投雪羽根6により跳ね上げられ、案内筒25及び投雪シュート26を通って指定した方向に投雪される。

後進及び前進移動の際は、走行レバー23を戻して、走行車輪12を橇17面より上方に格納して、手押し滑走させる。

〈考案の効果〉

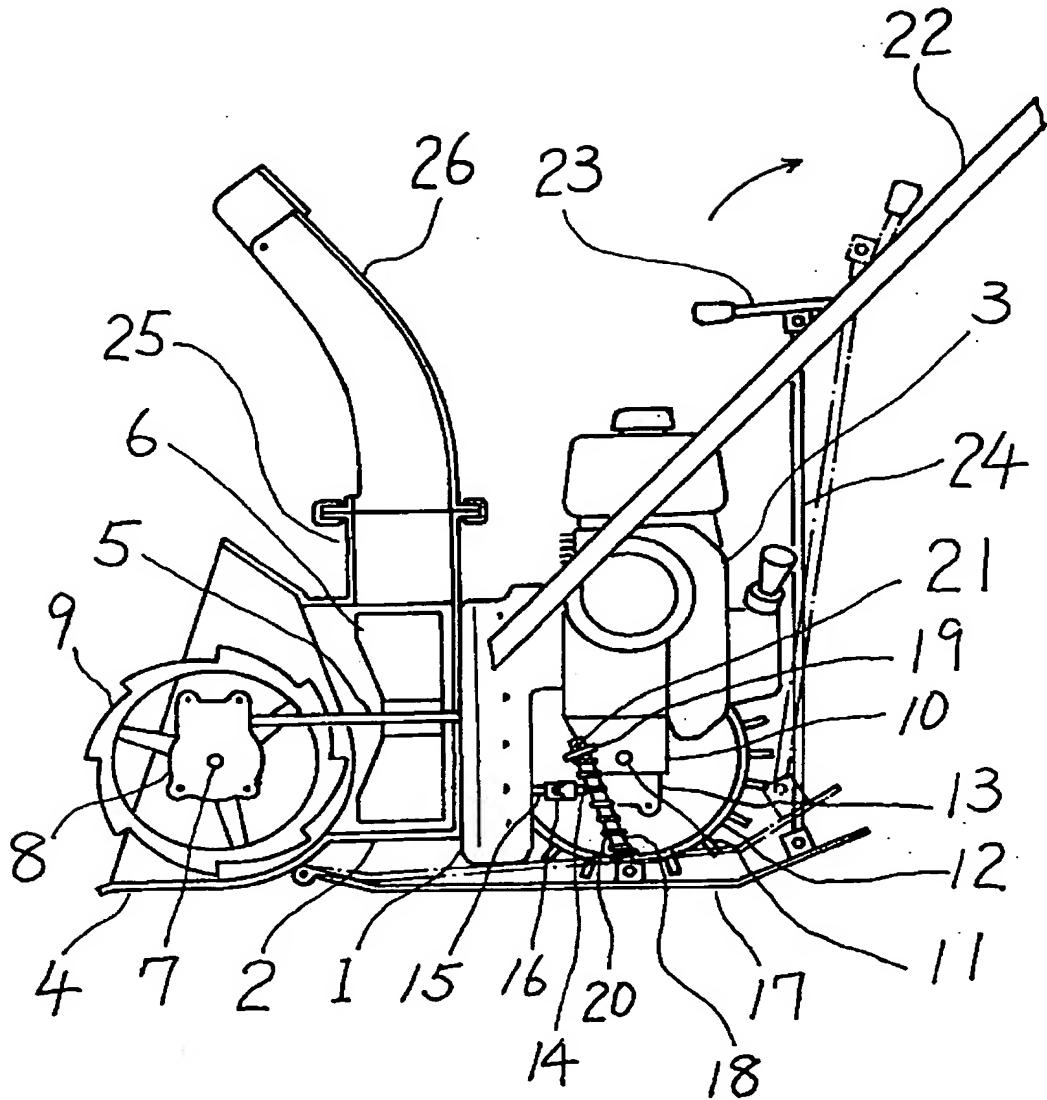
本考案は以上の通り、下方に付勢した橇下面より上方に車輪を設け、その車輪を突出させるべく橇を上昇固定する機構を設けたので、後進駆動系、走行クラッチ等複雑な機構を必要とせず、前進駆動及び後進、前進移動（車輪走行より早く）することができるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案を実施した小型除雪機の側面断面図である。

2…ブロワークース、 3…原動機、 9…  
オーガ、 12…車輪、 17…橇、 18…スプリ  
ング支、 19…スプリング受、 20…橇スプリ  
ング、 21…ストッパー、 22…操作取手、  
23…走行レバー

実用新案登録出願人 大島農機株式会社



第1図

209

実開63-130520

实用新案登録出願人 大島農機株式会社